

ご当地キャラクターの PR ツール提案

グラフィック B チーム
赤座伊織、嶋原萌絵、芳賀翔太

研究目的

近年、ご当地キャラクターのブームは日本中に広まり、地域おこしや名産物の紹介などに多く使用され、団体や企業の大事なアイデンティティ(団体や企業が掲げた理念や行動方針などを内外で共有するもの)の一つとなっています。(例：ひこにゃん、くまモン)

そこで、今回私たちは、このご当地キャラによる PR 効果にどれ程の力があるのか、また人々にどのような印象が起こるのか等を調査し、地域活性化になる、より良い PR 方法やグラフィックツールの提案を行う事を目的とします。

実際に福島県会津美里町のマスコットキャラクター「あいづじげん」を使用して、研究を行う。

活動報告

5月24日：新しく出来る本郷小学校の陶壁デザイン案提出。

7月11日：本郷保育所にてゲリライベントでの認知度調査。

*

10月11日：『ふくしまの元気！応援CM大賞』に応募する美里町CM完成。

10月13・14日：紅翔祭にて提案ツールの検証と認知度調査。

簡単なPRツール配布、アンケート、インタビューを実施した。

10月16日：着せ替えデザイン案を提出。

Twitterのアイコンに使用。

10月18日：陶壁作業開始。

*

11月25日：栃木(宇都宮)、埼玉(羽生)ゆるキャラサミット参加。

12月2日：『ふくしまの元気！応援CM大賞』テレビ収録。

12月6日：サポートキャラクター、てんかいさんのパペット試作完成。

12月24日：東京(東京国際フォーラム)ふくしま大交流フェアに参加(風船・シール)

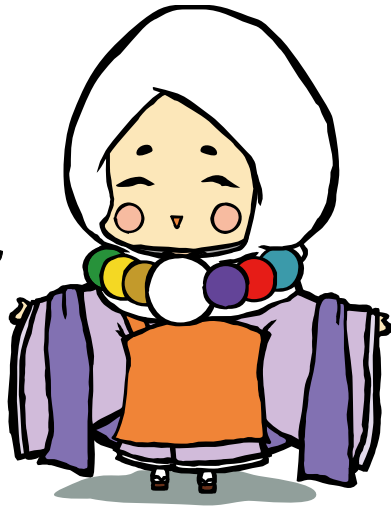
1月9日：新鶴幼稚園に訪問(てんかいさんパペット紹介・風船)

1月11日：あいづじげんのオフィシャルサイト公開



成果物

てんかいさん



陶壁、サポートキャラクター提案、パペット、シール、ツイッターアイコン、サンバイザー、風船、会津美里町 15 秒 CM、WEB サイト、あいづじげんの昔話、マニュアル.....

考察

この研究を通して感じたことは、ご当地キャラクターというものが、いかに人を集めているのかということである。ただ注目を集めるだけでなく、子供たちの興味関心を惹き、親しみやすさを感じさせ、人と人との距離を縮めることにに関してとても効果的である。サポートキャラクターの提案は、他のご当地キャラクターとの差別化にとっても効果的であると思う。話すことができないキャラクターの変わりを人が務めるのではなく、キャラクターが務めるということは今までにない方法で、よいと思う。今後の発展希望としては、私たちの提案したグッズやサポートキャラクター「てんかいさん」が注目度を上げていく手助けになればと思う。また、「てんかいさん」だけにどんどん「展開」していくことを願う。